

平成27年度（平成26年度対象）

三島市教育委員会

点検・評価報告書

平成27年9月

三島市教育委員会



これまで教育委員会制度は、教育の政治的中立性と継続性・安定性を確保し、教育行政に多様な民意を反映する仕組みとして、長年にわたり大きな役割を果たしてきました。しかし、その一方で、教育委員会制度に対しては、責任の不明確さ、閉鎖的体質、危機管理能力の低さなどの問題を指摘する声があったことも事実です。いじめや体罰に起因するとみられる自殺事件をきっかけとして、教育委員会に対するこのような批判の声は高まりました。

こうした中、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、地方公共団体の長と教育委員会との連携の強化、地方に対する国の関与の見直し等制度の抜本的な改革を行うことを目的に、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が平成27年4月1日から施行され、地方の教育行政は大きな転換期を迎えようとしています。

三島市教育委員会では、「個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する」とした教育基本法の理念にのっとり「豊かな感性と確かな学力を持つ、心身ともに健康な子どもの育成」を目指し、様々な施策を展開しています。また、「生涯学習推進プラン」及び「文化振興基本計画」の平成27年度中の完成を目指して、現在策定に取り組んでいるところです。

この点検・評価は、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の趣旨に基づき、効果的な教育行政を推進し、市民の皆様方への説明責任を果たし、もって信頼される教育行政を確立することを目的に、平成20年度から毎年行っており、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表しております。

本報告書は、平成26年度における三島市の教育行政事務の管理及び執行の状況についての点検・評価を行ったものですが、三島市教育委員会といたしましては、この結果を今後の施策に十分に活かし、子どもたちの生きる力を育む教育の推進や、市民の皆様方が生涯にわたって学び続けることのできる教育環境の整備・充実など、活力ある教育行政の推進に努めてまいります。

平成27年9月

三島市教育委員会

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（昭和 31 年法律第 162 号）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

（平一九法九七・全改、平二六法七六・旧第二十七条繰上・一部改正）

目 次

1	はじめに .....	1
2	点検・評価の対象 .....	1
3	点検・評価の方法 .....	3
4	三島市教育委員会の自己点検・評価シート .....	4
	<b>大項目 1</b> 教育委員会の活動 .....	4
	<b>大項目 2</b> 教育委員会が管理・執行する事務 .....	6
	<b>大項目 3</b> 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務 .....	8
5	三島市教育委員会事務管理等点検・評価委員からの意見・講評 .....	18
6	おわりに .....	26

## 1 はじめに

昭和 22 年に制定された教育基本法が、平成 18 年におよそ 60 年ぶりに全面改正され、さらに学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律などの教育三法が改正されるなど、教育委員会を取り巻く環境は、今、大きく変化しています。

とりわけ、地方の教育行政推進に責任を持つ教育委員会のあり方が問われる中、三島市教育委員会におきましては、変化する社会に対応し、教育改革の動向を踏まえ、適切な教育行政の推進と教育関係者の資質向上に努めています。

また、毎月の定例教育委員会議をはじめ、学校や関係施設を訪問するなどの活動を通じて、細やかな地方教育行政を推進しています。

この報告書は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条の規定に基づき、平成 26 年度の教育行政の主要な施策や事務事業の取組状況について、課題や取組の方向性を明らかにすることを目的に、進捗状況等について自ら点検及び評価を行い、学識経験者の意見をいただいで作成しました。

## 2 点検・評価の対象

点検及び評価は、平成 26 年度における教育委員会の主要な施策・事業を対象として実施するものとし、以下の大項目ごとに点検及び評価を実施しました。

### (1) 教育委員会の活動

三島市教育委員会では、教育行政の基本的な施策の決定や諸問題の解決策の重要案件等を審議決定するため、原則として毎月 1 回の定例会を開催し、必要に応じて緊急案件を審議する臨時会を開催していることから、教育委員会会議の運営状況、公開状況、保護者や地域住民への情報発信の状況等を点検及び評価の対象とし、教育委員会組織が自ら行う行為又は活動を中心に、6 つの中項目に分け、点検事項として各々に小項目を設けました。

### (2) 教育委員会が管理・執行する事務

教育委員会が管理・執行する事務は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 25 条第 2 項及び三島市教育委員会の権限に属する事務の委任等に関する規則（※次ページ参照）第 1 条の規定により教育長に委任せず、教育委員会が合議によって定め実施する事項について、教育委員会が自ら管理・執行する事務として区分し、12 項目を対象としました。

なお、この項目については達成状況を測るものではなく、その事務を執行する必要が生じた際に、速やかに実施すべき性質のものであることから、評価は行わず実施内容のみを点検することとしました。

○三島市教育委員会の権限に属する事務の委任等に関する規則

(昭和62年三島市教育委員会規則第5号)

(事務の委任)

第1条 教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号。以下「法」という。)第25条第1項の規定により、同条第2項各号に掲げる事務及び次に掲げる事務を除き、その権限に属する事務を教育長に委任する。

- (1) 1件50万円を超える教育財産の取得を市長に申し出ること。
- (2) 1件200万円以上の工事の計画を策定すること。
- (3) 県費負担教職員(校長を除く。)の懲戒について、静岡県教育委員会(以下「県委員会」という。)に内申すること。
- (4) 県費負担教職員(校長に限る。)の任免その他の進退について、県委員会に内申すること。
- (5) 県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。
- (6) 社会教育委員、附属機関の構成員その他委員を委嘱すること。
- (7) 学齢生徒及び学齢児童の就学すべき学校の区域を決定し、又は変更すること。
- (8) 教科用図書を選択すること。
- (9) 校長、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
- (10) 市指定文化財を指定し、又はその指定を解除すること。

(重要な事務等の特例)

第2条 教育長は、前条の規定にかかわらず、委任された事務のうち重要なもの又は異例なものについては、教育委員会の決定に付さなければならない。

附 則

この規則は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則(平成21年教委規則第2号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成27年教委規則第5号)

- 1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律(平成26年法律第76号)附則第2条第1項の場合においては、この規則による改正後の第4条の規定は適用しない。

**(3) 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務**

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定される教育委員会の職務から、前記(1)及び(2)に掲げたものを除いた部分について、管理・執行を教育長に委任して行う事務として扱い、第4次三島市総合計画の施策名ごとに指標を設けました。また、中項目は第4次三島市総合計画の施策の方向、小項目は中項目に係る取組みの内容とし、小項目に対する点検及び評価を実施しました。

### 3 点検・評価の方法

○大項目 1 及び 3 の評価の方法は、「達成度」とします。

また、前年度の評価を「●」、今年度的评价を「☆」で表すことにより、前年度との評価の比較が容易にできるようにしました。なお、今年度は、「三島市総合計画前期基本計画修正版」を小項目に反映したため、前年度の評価がない項目もあります。

#### 【評価の段階】

- 3・・・十分目標を達成できた
- 2・・・概ね目標を達成できた
- 1・・・目標が達成できなかった

○大項目 3 では、第 4 次三島市総合計画で設定した指標を基に、H27 年度目標値に対する評価年度の進捗状況を表わしました。

#### 【進捗状況】

- A・・・予定をはるかに上回る
- B・・・概ね予定どおり
- C・・・予定より遅れている

# 三島市教育委員会の自己点検・評価シート（平成26年度実績用）

## 自己点検・評価の考え方






達成度 3 達成度 2 ↑ 1	達成度 3 2 1	3・・・十分目標を達成できた 2・・・概ね目標を達成できた 1・・・目標が達成できなかった ●・・・前年度評価 ☆・・・今年度評価	指標に対する進捗状況 A・・・予定をはるかに上回る B・・・概ね予定どおり C・・・予定より遅れている
--------------------------------	--------------------	---	--

### 大項目1 教育委員会の活動

中項目	小項目	点検・評価	
(1) 教育委員会の会議の運営改善	①教育委員会会議の開催回数	達成度 3 2 ↑ 1 	○定例会を月1回（年間12回）開催するとともに、人事に係る議案等に関する臨時会を平成26年度は年間3回開催し、それぞれの会議において活発な議論が行われた。 ○平成25年度と比較して臨時会の開催回数は2回減っているが、突発的で緊急性のある事案が少なかったため、結果的に開催回数の減少となった。
	②教育委員会会議の運営上の工夫	達成度 3 2 ↑ 1 	○議案や前回会議録の原案を事前に各委員に配布することにより、効率的な議事進行を図るよう努めた。 ○平成26年度は、庁舎（中央町別館）以外に、生涯学習センター及び南中学校で会議を行った。
(2) 教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	①教育委員会会議の公開の状況	達成度 3 2 ↑ 1 	○人事案件等を扱うため非公開とされた会議を除き、原則として会議は公開としている。 ○教育委員会会議の開催について広く市民に周知するための方策として、市のホームページに定例会の開催日程や場所、議題等を事前に掲載した。 ○会議の会場には、傍聴者のための議案等も用意した。なお、会議の通算傍聴者数は、平成25年度14人に対し、平成26年度は5人であった。
	②議事録の公開、広報・広聴活動の状況	達成度 3 2 ↑ 1 	○会議録を作成し、教育委員の署名を受けた後、市役所の情報公開コーナーに常設するとともに、市のホームページにも掲載し、広く一般への公開を行った。
(3) 教育委員会と事務局との連携	○教育委員会と事務局との連携	達成度 3 2 ↑ 1 	○教育委員会会議の議論を深めるため、毎回会議前に教育委員に対して、会議議題についての事前説明を実施した。また、必要なときはいつでも、教育委員と事務局との間で、意見交換や連絡調整を行っている。



# 大項目1 教育委員会の活動

中項目	小項目	点検・評価	
(4) 教育委員会と首長の連携	○教育委員会と首長との意見交換会の実施	達成度 3  2 ↑ 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成25年度に引き続き市長及び教育委員と社会教育委員との意見交換会を実施した。意見交換に先立ち、「教育委員会改革について」、「学校支援地域本部事業の進捗状況について」、「生涯学習推進大綱(プラン)について」の説明があった。その後「生涯学習推進大綱(プラン)に期待するもの」をテーマに意見交換を行った。</li> <li>○平成27年度予算編成前の11月に、教育委員と市長との意見交換会を実施し、教育委員会の懸案事項の要点説明、予算への反映についての要望を市長に行ったほか、フリーテーマとしていじめ問題や部活動と外部クラブなどについて忌憚のない意見交換を行った。</li> </ul>
(5) 教育委員の自己研鑽	○研修会への参加状況	達成度 3  2 ↑ 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○静岡県内の各市町教育委員会で組織される団体が開催する各種研修会に出席した。</li> <li>○文部科学省が主催する「市町村教育委員会研究協議会(第1ブロック)」に関委員長が出席し、「新たな教育委員会制度」について基調講演と行政説明を受けた。</li> <li>○ICTの整備を予定していることから、「ICTを活用した授業改善について」をテーマに、東京都日野市教育委員会及び日野第一小学校を訪問し、ICT推進に関する教育委員会の取り組みと通常学級及び特別支援学級における授業でのICT活用状況について、県外先進地視察研修を実施した。</li> </ul>
(6) 学校及び教育施設に対する支援・条件整備	①学校等の訪問	達成度 3 2  ↑ 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入学式や卒業式をはじめとした学校行事の際に、幼稚園、小学校、中学校へ教育委員がそれぞれ訪問し、関係者との意見交換を行っている。</li> <li>○南幼稚園において公開保育及び研究発表会を実施し、教育委員も参観した。</li> <li>○佐野小学校プール改修工事及び佐野小学校太陽光発電設備等設置工事を視察するため、教育委員が学校を訪問し、工事を担当する建築住宅課職員から工事の概要などの説明を受けた後、工事現場を視察した。</li> </ul>
	②所管施設の訪問	達成度 3  2  ↑ 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生涯学習センターを教育委員が訪問し、生涯学習課、文化振興課及び図書館職員と懇談するとともに、生涯学習センター内施設を視察した。</li> <li>○錦田こども園で開催された静岡県移動教育委員会に教育委員が出席し、会議開催前に錦田幼稚園、錦田保育園、療育支援室の保育の状況を視察した。</li> </ul>

## 大項目2 教育委員会が管理・執行する事務

中項目	点 検
(1) 教育行政の運営に関する基本方針を定めること。	○三島市学校教育振興基本計画および5か年行動計画を策定し、三島市の学校教育の長期的な方向性を明確に示すことができた。
(2) 教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること。	○教育委員会規則改正9件、規程改正4件 <ul style="list-style-type: none"> <li>・三島市文化振興審議会規則の制定(6月定例会)</li> <li>・三島市立小・中学校処務規程の一部を改正する訓令の制定(11月定例会)</li> <li>・三島市教育委員会公告式規則の一部改正(2月定例会)</li> <li>・三島市教育委員会会議規則の一部改正(2月定例会)</li> <li>・三島市教育委員会傍聴人規則の一部改正(2月定例会)</li> <li>・三島市教育委員会事務局処務規則の一部改正(2月定例会)</li> <li>・三島市教育委員会職員辞令書式規程の一部改正(2月定例会)</li> <li>・三島市教育委員会の権限に属する事務の一部を教育長に委任する規則の一部改正(3月臨時会)</li> <li>・三島市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部改正(3月臨時会)</li> <li>・三島市教育委員会公印規則の一部改正(3月臨時会)</li> <li>・三島市就学指導委員設置に関する規則の一部改正(3月臨時会)</li> <li>・三島市立小・中学校処務規程の一部改正(3月臨時会)</li> <li>・三島市職員倫理規程の一部改正(3月臨時会)</li> </ul>
(3) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること。	○予算関係5件 <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月補正予算(6月定例会)</li> <li>・9月補正予算(9月定例会)</li> <li>・11月補正予算(11月定例会)</li> <li>・新年度当初予算(12月定例会)</li> <li>・2月補正予算(2月定例会)</li> </ul> ○条例関係6件 <ul style="list-style-type: none"> <li>・三島市文化振興基本条例の制定(6月定例会)</li> <li>・三島市立学校設置条例の一部改正(2月定例会)</li> <li>・三島市教育委員会の職務権限に係る事務のうち市長が管理し、及び執行する事務に関する条例の一部改正(2月定例会)</li> <li>・三島市いじめ問題対策連絡協議会条例の制定(2月定例会)</li> <li>・三島市いじめ問題対策委員会条例の制定(2月定例会)</li> <li>・三島市立幼稚園保育料等徴収条例の一部改正(2月定例会)</li> </ul>
(4) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関を設置し、又は廃止すること。	○三島市立幼稚園の平成27年度入園児に係る募集の結果、三島市立はったばた幼稚園への4歳児への応募が7人であったことから、4歳児への応募が15人未満となり、3年連続で学級編成ができないことになった。 このことから、三島市教育委員会制定の『今後の三島市立幼稚園の学級編制その他のあり方に関する方針』及び平成25年12月の教育委員会定例会において承認された、「三島市立はったばた幼稚園の廃園等の判断基準について」に定めるところにより、同園を閉園とした。
(5) 教育委員会事務局及び教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。	○教育委員会3月臨時会において、三島市教育委員会所属職員の平成27年4月1日付け人事異動案を提出し、承認された。 ○異動、退職、採用等の対象職員は、全体で延べ63人 <ul style="list-style-type: none"> <li>・部長級：昇格者1人</li> <li>・課長級：異動者1人、昇格者4人、採用1人</li> <li>・補佐級：昇格者1人</li> <li>・係長級：異動者7人、昇格者1人</li> <li>・指導主事級：採用1人</li> <li>・一般職員：異動者12人、採用4人、再任用1人</li> <li>・幼稚園長：異動者3人、昇格者3人、再任用1人</li> <li>・幼稚園主任教諭：異動者1人、昇格者4人</li> <li>・幼稚園教諭：異動者2人、併任採用5人</li> <li>・退職者：10人(再任用2人を含む)</li> </ul>
(6) 県費負担に係る校長の任免その他の人事の内申に関すること。	○平成26年度末の人事異動に際し、静東教育事務所に職員の内申を行った結果、教育委員会の意向の約9割以上が異動に反映された。
(7) 県費負担に係る教職員の人事の内申に関すること。	○平成26年度末の人事異動に際し、静東教育事務所に職員の内申を行った結果、教育委員会の意向の約9割以上が異動に反映された。

## 大項目2 教育委員会が管理・執行する事務


中項目	点 検
<p>(8) 教育委員会の所管に属する各種委員会の委員の任命又は委嘱に関する事。</p>	<p>○三島市学校評議員、(4月定例会)            ○三島市就学指導委員、三島市立学校給食共同調理場運営委員会委員、三島市補導指導員、三島市立箱根の里運営協議会委員、三島市社会教育委員、三島市青少年相談室運営懇話会委員、三島市図書館協議会委員(5月定例会)            ○三島市教育委員会事務管理等点検・評価委員、三島市結核対策委員会委員(6月定例会)            ○三島市就学指導委員、三島市文化振興審議会委員(10月定例会)            ○三島市立中学校の学校医(3月定例会)</p>
<p>(9) 教科用図書の採択の決定に関する事。</p>	<p>○田方地区教科用図書採択連絡協議会(4月、6月)            ○田方地区教科用図書研究委員会(6月3回)            ○平成28年度～31年度使用小学校教科用図書の採択が適正に行われた。</p>
<p>(10) 通学区域を設定し、又は変更する事。</p>	<p>○平成26年度は通学区域内の自治会から、通学区域についての要望がなかったため通学区域審議会は開催されず、通学区域の設定及び変更はなかった。</p>
<p>(11) 文化財を指定し、又は指定を解除する事。</p>	<p>○平成26年度は、一番町の鏡池公園にある三島横臥溶岩樹形が三島市指定文化財(天然記念物)に、三嶋大社所蔵の三十六歌仙図刺繍額が静岡県指定有形文化財(工芸)に指定された。</p>
<p>(12) 請願、陳情、訴訟及び異議の申立てに関する事。</p>	<p>○児童の事故(平成21年度発生)の訴訟は、平成26年9月3日に和解が成立した。</p>

### 大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

《豊かな人間性と確かな学力の向上》


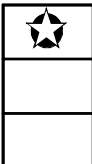



指標名	現状値 (H21)	H26	目標値 (H27)	進捗状況
「学校が楽しい」と答えた小・中学生の割合	87.3%	87.8%	90%	C
「授業がわかりやすい」と答えた小・中学生の割合	小学校92.5%	—	—	指標を変更したため 評価なし
	中学校72.8%	—	—	
「授業の内容がよくわかり、テストや成績が目標に達した」と答えた小・中学生の割合	—	小学校79.8%	小学校75%	A
	—	中学校55.5%	中学校65%	C
幼稚園・小中学校の耐震化率	75%	100%	100%	A
小中学校屋内運動場等の天井等非構造部材の耐震化率	0%	53.8%	100%	B

進捗状況 : A・・・予定をはるかに上回る B・・・概ね予定どおり C・・・予定より遅れている

中項目	小項目	点検・評価	
(1) 幼児教育の向上	① 幼児教育振興プログラムの推進	達成度 ↑ 1 2 3	 <p>○本プログラムは平成17年度から平成26年度を計画期間としている。その間3園の園舎建て替えが行われたこと、また三島市立幼稚園適正配置等検討懇話会より「三島市立幼稚園の適正配置に関する提言書」が平成24年2月に出されたことなど、大きな進展が見られた。平成20年の幼稚園教育要領の改定や、平成27年度からの「子ども・子育て支援新制度」の施行を踏まえ今後の方向を検討する必要があるが、現在は幼児教育に対する環境が変わっていく課程であると考えられることから当プログラムの更新は見送り、「子ども・子育て支援事業計画」に引き継いでいくこととする。</p> <p>○平成25年2月に開催された市立幼稚園の3歳児学級のあり方庁内検討会の報告を受け、北幼稚園の3歳児学級1学級を平成27年度から徳倉幼稚園に移すための準備を開始した。</p>
	② 幼稚園教育の充実	達成度 ↑ 1 2 3	<p>○「子どもは、学級や幼稚園生活を楽しく送っている」と答えた保護者の割合は99%である。</p> <p>○質の高い保育をめざし、教職員の質の向上を図るため、さまざまな研修を計画、実施した。園内においても、園長の園経営方針に基づき、幼児理解、保育技術、特別支援教育など、実際の幼児の姿を踏まえた研修を重ねてきた。若年層の教員への三島の幼児教育の理念の浸透、望ましい保育観確立のための指導などが、喫緊の課題である。平成27年度から施行される「子ども・子育て支援新制度」の中においても、市民から信頼され選ばれる市立幼稚園となるよう、制度の理解、今後の市立幼稚園の在り方等について、研修を深めた。</p>
	③ 家庭・地域との連携強化	達成度 ↑ 1 2 3	<p>○各園において、積極的に地域の人、施設、教育機関等に働きかけ、日常的な交流のみでなく、地域の力を保育に生かしたり、災害時の協力体制を築いたりしている。</p> <p>○園の保育を充実させて園児の育ちを明らかにしていくことで、保護者の信頼を得るよう努めている。</p>
	④ 特別支援教育の充実	達成度 ↑ 1 2 3	<p>○個別配慮が必要な幼児が通園する幼稚園に、「特別支援児サポート職員」13人を配置した。</p> <p>○平成26年度は療育支援室との連携の下「静岡てんかん・神経医療センター」の杉山 修先生を迎え、錦田幼稚園・沢地幼稚園にて年間を通して、実際の保育現場での指導を受けることができた。</p> <p>幼児の変容及びサポート職員も含めた職員の質の向上は杉山先生も認めるほど顕著であった。今後この取り組みの状況を市内全園に普及させていくことが課題である。</p>



### 大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

#### 《豊かな人間性と確かな学力の向上》

中項目	小項目	点検・評価	点検・評価
(2) 小中学校における教育力の向上	①心の教育の推進	達成度 3 2  1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○三島市学校教育振興基本計画の基本理念の趣旨は、未来を担う子どもたちに確かな学力と健やかな心身を養うべく、何よりも「心の教育」を柱とした取組が必要であるとしている。</li> <li>○「心の教育」を実現するために「思いやる心」を目標にし、「人の心の痛みをわかろうとする子」、「正しい判断力を持ち、その思いに沿った行動ができる子」と言った子ども像を掲げている。</li> <li>○心の教育が推進すれば、子どもたちは学校でより楽しく過ごすものとする。H26学校が楽しいと回答した子ども：小学生88%、中学生88% 自分の子どもは学校生活を楽しんでいると回答した保護者：小学校96%、中学校92%であった。</li> </ul>
	②確かな学力の育成	達成度 3  2 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育研究指定事業において指導主事による学校訪問を定着化し、指定校の研究推進を指導した。</li> <li>○教科等指導リーダー事業において各リーダーによる模範授業を通して、教師の授業力向上を図った。</li> <li>○平成26授業が分かりやすいと回答した子ども：小学生90%→80%、中学生77%→56% ※質問内容に変更があったため児童生徒の自己評価が厳しくなっている。</li> <li>○全国学力学習状況調査の結果 小学生国語：県よりやや高く、全国より高い 小学生算数：県・全国よりやや高い 中学生国語：県・全国より高い 中学生数学：県よりかなり高く、全国より極めて高い</li> </ul>
	③生徒指導や特別支援教育等の充実	達成度 3 2  1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不登校対策のために、学校教育課が運営する適応指導教室に2人の指導員を配置し、不登校児の学校復帰のための支援を行った。</li> <li>○不登校の出現率：小学校が0.35%→0.62% 中学校が1.81%→2.74% (県：H25：小学校0.44% 中学校2.88%)</li> <li>○いじめ対策のために、教師が家庭訪問や校外活動をする際の活動費として、生徒指導連絡会補助金を各校へ配布した。 いじめの解消率：小学校が88.5%→91.9% 中学校が91.8%→87.5% (県：H25：小中学校74.4%)</li> <li>○いじめ重大事案に適切に対処するため、三島市いじめ問題対策委員会条例、三島市いじめ問題対策連絡協議会条例の施行準備を進めた。</li> <li>○巡回相談を160回実施し、特別な教育支援を必要とする園児、児童・生徒に対する支援体制を充実できた。</li> <li>○三島市就学指導委員会を年4回実施し、当該児童生徒について、適切な就学指導について審議した。</li> <li>○特別支援教育コーディネーター研修会を年4回、幼稚園と合同で実施した。</li> <li>○発達障害療育支援専門講座を関係課と共催し、学校関係者、福祉関係者など2日で延べ543人が受講した。</li> </ul>
	④信頼される学校づくり	達成度 3 2  1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各校は、学校のランドデザイン、各種たより、学校ブログを積極的に発信し、保護者や地域の方々に理解を求めた。 学校教育目標理解度：保護者 小学校82% 中学校82%</li> <li>○子どもや保護者からの相談をしっかりと受け止め、親身な相談活動に努めた。 教育相談(親身に相談に乗る) 児童生徒：小学校80% 中学校70% 保護者：小学校86% 中学校77%</li> <li>○学校への意見や要望をじっくり聞き、学校への信頼感と期待感が向上するよう努めた。 学校は丁寧な対応をしていると答えた保護者：小学校97% 中学校91%</li> </ul>
	⑤安全・安心な学校給食の推進	達成度 3  2 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校給食については、子供たちには日本型食生活に即した安全・安心な給食の提供に努めている。残食率は、小学校で1.00%、中学校では6.89%となり、限界値に近い数字となった。また、地場産品の使用率も国の基準を大きく上回り、38%であった。</li> </ul>

### 大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

《豊かな人間性と確かな学力の向上》

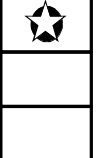
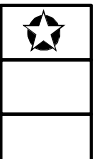
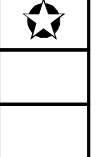
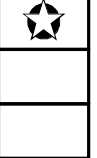


中項目	小項目	達成度	点検・評価
<p>(3) 教育環境の整備</p>	<p>①教育施設・設備の整備</p>	<p>達成度</p> <p>↑ 1</p> <p>2</p> <p>3</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東日本大震災における屋内運動場等の天井等の落下による甚大な被害を踏まえ、沢地小・北上小・山田小・向山小・西小・東小・南小・中郷中・南中・北上中・北中学校の屋内運動場の天井等落下防止対策工事及び錦田中・山田中・中郷西中学校の柔剣道場の天井等落下防止対策工事を実施した。</li> <li>○佐野小・長伏小学校に、災害時においても自立運転機能を持つ太陽光発電設備を設置するとともに、屋内運動場の水銀灯をより節電効果の高いLED照明器具に取り替えた。</li> <li>○老朽化していた佐野小学校のプール本体とプールサイドを改修するとともに、付属建物を建替えた。</li> <li>○老朽化していた山田小学校のFRP製受水槽をステンレス製受水槽に取り替えた。</li> <li>○夏における暑さ対策として、空調設備のない中学校の特別教室に扇風機を設置した。</li> <li>○沢地小・中郷中学校のトイレの床をウェット式からドライ式へ、大便器を和式から洋式へ改修した。</li> <li>○北幼稚園の園庭の一部を芝生化した。</li> </ul>
	<p>②安全・安心な環境整備</p>	<p>達成度</p> <p>↑ 1</p> <p>2</p> <p>3</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもたちの安全確保と、正確な情報を迅速、確実、公平に保護者に伝達することを目的として、市内の全小中学校に「子ども安全連絡網」を、平成19年度からの継続で提供した。</li> <li>○児童生徒の通学時における安全確保のため、各学校で定期的に通学路の点検をしたり、地域と一体となった活動体制を行った。</li> <li>○平成26年度には、スクールガード全体研修を実施した。</li> </ul>

### 大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

#### 《 青少年の健全育成の推進 》




指標名	現状値 (H21)	H26	目標値 (H27)	進捗状況
小学生・中学生高校生対象事業の参加延人数 (年間)	1,265人	1,520人	1,300人	A
学校支援地域本部設置数 (延べ)	—	6校	11校	A
箱根の里利用延人数 (年間)	22,976人	23,506人	30,000人	C

進捗状況 : A・・・予定をはるかに上回る B・・・概ね予定どおり C・・・予定より遅れている

中項目	小項目	点検・評価	
(1) 青少年活動の推進	①青少年活動への支援	達成度 3 2 ↑ 1	 <p>○ボーイスカウト三島地区、ガールスカウト三島地区連絡協議会、三島市子ども会連合会に対して、各団体の求めに応じた青少年育成活動への支援と助言等を行い、当該事業の活性を図ることができた。 今後も団体活動に対する啓発を継続していきたい。</p>
	②リーダーの育成	達成度 3 2 ↑ 1	 <p>○中学生を対象にしたジュニアリーダー研修や高校生を対象にした高校生リーダー研修、青年層を対象にした三島若者元気塾等、各年齢層ごと、幅広く事業を実施する体制が整い、社会教育事業への継続的な参加が可能となっており、リーダーの育成に繋がっている。進学や就職等により継続的なかかわりが難しい場合が多い中で、各研修の成人指導者のうち半数を超える割合で研修出身者が活躍している。 なお、少年の船については台風で本研修を実施できなかったが事前及びフォロー研修を実施した。</p>
	③青少年指導者の育成	達成度 3 2 ↑ 1	 <p>○静岡県青少年指導者の資格取得と更なるスキルアップを図ることを目的に青少年指導者養成研修を年間14回開催した。みしまっ子体験塾における小学生の指導、安全確保等の実践活動を通じて、青少年指導者としての知識と技能を身に付け、中級指導者への挑戦を支援している。また、先輩指導者が助言を行いスキルを高めあっていることも三島市の特徴である。</p>
(2) 青少年を育む地域づくり	①健やかな成長のための環境づくりの推進	達成度 3 2 ↑ 1	 <p>○三島市青少年健全育成会が中心となって実施する全市一斉あいさつ運動や青少年への声掛け運動、研修会等を通じて、「地域で青少年を守り育てる」意識の醸成を図った。また、子どもの考えを発表、理解を進める場として、「中学生の主張」大会を開催した。 学校、家庭、地域の更なる連携推進を図ることを目的に推進している学校支援地域本部事業については、従前の1校に、5校を加えた6小中学校で開設することができた。 同時に平成29年度には全小中学校で開設する目標に向けて準備を進めた。</p>
	②相談体制の充実	達成度 3 2 ↑ 1	 <p>○積極的に学校等へ訪問して、関係者との連携を密にし、相談ケースに対してきめ細やかな対応や継続的なかかわりを行うことにより、相談件数は面接相談、電話相談とも前年を上回っている。 また、学校担当者や家庭児童相談室等の関係機関との連携を図り、不登校等への対応を強化した。</p>
	③青少年の育成環境の整備	達成度 3 2 ↑ 1	 <p>○補導活動は学校や自治会をはじめ各団体の協力をいただく中で、実施回数、参加者数とも前年を上回り、効果的に補導コースを選定、実施し、地域の大人が見守っている事を意識させる「見せる補導」や「声掛け」を積極的に行った。 また、青少年相談室の広報紙による情報提供や三島市青少年健全育成セミナーの開催を通じて、子どもの理解とかかわり方の啓発に努めた。</p>

### 大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

#### 《青少年の健全育成の推進》

中項目	小項目	達成度	点検・評価
(3) 青少年活動の場の整備	①箱根の里の有効活用	達成度 3  2 <input type="checkbox"/> ↑ 1 <input type="checkbox"/>	<p>○安全で快適に利用できるよう、計画的な施設の整備、修繕を進めた。主催事業の充実、開催時期の工夫を図るとともに、利用団体の協力のもと箱根の里まつりを開催して市民への広報と来所の機会拡大を図った。</p> <p>また、市内小中学校の自然教室等の利用や課内の社会教育事業等にも活用した。</p> <p>なお、施設の整備の手順を合理的に進め、冬期の積雪等にも対応して利用希望に沿った開所ができるよう努めた。</p>
	②活動の機会と場の充実	達成度 3  2 <input type="checkbox"/> ↑ 1 <input type="checkbox"/>	<p>○生涯学習センターや児童センター、公民館、箱根の里等において、小学生を対象に野外活動やものづくりといった様々な体験を重視した事業を開催することにより、子どもたちに幅広く交流、体験の機会と場を提供することができた。</p> <p>課内の事業の構成は、小学生から中学、高校、成人に至るまで継続して研修等に参加できる体制を作っており、ボランティア指導者、団体等の協力をいただく中で、三島の将来を担う青少年を育成している。</p>
	③関係機関・団体などとの連携	達成度 3  2 <input type="checkbox"/> ↑ 1 <input type="checkbox"/>	<p>○ボーイスカウト三島地区、ガールスカウト三島地区連絡協議会、三島市青年団体連絡協議会、ジュニアリーダー研修実行委員会等の青少年健全育成を目的としたボランティアの協力をいただいた少年の船、チャレンジスクール等の実施やマナビスト連絡会や子ども会連合会による子供向けイベントをはじめ、さまざまな青少年事業を連携して実施することにより、相互の共通理解を深め、事業内容の更なる充実を図ることが出来た。</p>

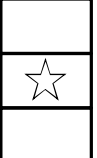




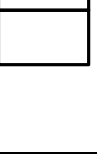
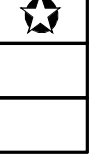


### 大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

《生きがいとなる生涯学習の推進》

指標名	現状値 (H21)	H26	目標値 (H27)	進捗状況
生涯学習センター学習施設利用者数 (年間)	127,153人	129,308人	140,000人	C
生涯学習講座・イベント参加者数 (年間)	13,893人	14,071人	19,000人	C
公民館地域活動に参加する団体数 (年間)	119団体	203団体	180団体	A

進捗状況 : A・・・予定をはるかに上回る B・・・概ね予定どおり C・・・予定より遅れている

中項目	小項目	点検・評価	
(1) 総合的な生涯学習の推進	①(仮称)生涯学習プランの策定・推進	達成度 3 2 ↑1	 <p>○三島市生涯学習推進大綱を見直し、生涯学習の一層の推進を図るため、平成27年度末の完成を目指して、市民や利用者へのアンケート調査、現大綱の進捗状況調査等の基礎調査を行うと共に関係会議を開催し、スケジュールに沿った策定作業を進めた。</p>
(2) 多様な学習機会の提供	①各種講座・イベントの充実	達成度 3 2 ↑1	 <p>○市民の多様な学習ニーズに対応し、学習のきっかけや生きがいづくり、共に学ぶ仲間づくりの場ともなる各種講座・イベントや、学習成果の発表と交流の場として、利用者により主体性を持たせた運営で、生涯学習まつりを開催した。 天候や開催時期等が要因と考えられ、参加者数が計画を割り込む事業もあったため、個々の事業内容や時期の工夫を検討していきたい。なお、指標の参加者数の減少については、小学校巡回音楽会事業を他課に移管したため。</p>
	②人材の活用	達成度 3 2 ↑1	 <p>○ボランティアを活用したイベント開催や地区集会所等における講座実施、講師と受講生が参画して自主的運営を行ういきいきカレッジを支援した。青少年教育で育成した人材についても青少年に関わる事業に協力いただいている。 また、生涯学習指導者として登録していただき、市民の求めに応じて講師紹介を行う「ハロー教授バンク」により、市民が自身の学習成果やキャリアを活用するきっかけ作りを行った。</p>
	③家庭教育の支援	達成度 3 2 ↑1	 <p>○家庭教育に関する学習機会と情報を共有する場として、幼稚園、小学校、中学校の家庭教育学級の自発的な活動の啓発と支援を行い、計画に沿った開催ができた。学級開設のための講師情報や施設情報を提供すると共に、説明会や全学級生が参加できる研修会を実施し、内容の充実を図った。 また、幼児期セミナーや父親の講座等、主催の講座等への参加も順調であった。</p>
(3) 学習環境の整備・充実	①生涯学習センターの整備・充実	達成度 3 2 ↑1	 <p>○快適な学習環境を提供するため、館本体及び設備、屋外立体駐車場等の付帯施設の保守点検、適切な維持管理、計画的な改修・修繕に努めた。施設全般に経年劣化が進み空調や保安機器、雨漏り等の優先的に修繕が必要な対応に苦慮した。 また、電力デマンド監視装置を導入して、照明や空調機器のピーク電力を抑え、電気料金の抑制に努めたほか、委託業務の改善等を行い、経常経費の節減や合理的な業務執行に努めた。リース期限の切れたパソコン教室については、ワイファイで利用できる機器を導入して、最新の環境を提供した。</p>
	②公民館の整備・充実	達成度 3 2 ↑1	 <p>○公民館を快適、安全に利用していただくため、建物の適切な維持管理、保守点検整備や修繕計画的な改修・修繕を行うとともに、経費の節減に努めた。施設設備の規模が大きく開館が平成8年の中郷文化プラザにおいては、施設全般に経年劣化が進み、空調や照明やエレベータ、保安機器等の修繕が相次ぎ、対応に苦慮した。 また、各館とも利用者による使用後の清掃や館一斉のボランティア清掃が実施され、利用者も一体となった館を大切にする意識が醸成されている。</p>
(4) 社会教育活動の活性化	①公民館利用団体の活動支援	達成度 3 2 ↑1	 <p>○公民館運営審議会にて4館全体の事業等を審議したほか、地域性を考慮した事業を展開できるよう各公民館に懇話会を設け、各種団体や地域住民の意見を反映した運営に心がけた。 教育事業においては、学習活動の支援、助言に努めると共に、今日的な話題性のある内容を取り入れる等の工夫を行った。 また、各団体等の自主性を発揮させ、学習の成果を発表する場として公民館まつりを開催し、地域の絆を深め学習意欲を高めよう機会とした。利用の啓発やイベントへの協力を各自治会等に積極的に行い、利用団体並びに利用者数が増加した。</p>


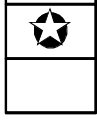


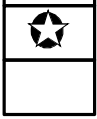

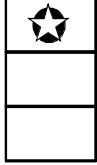
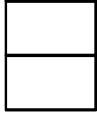


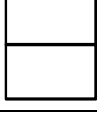

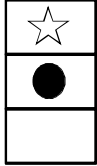
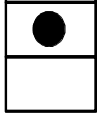

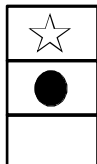
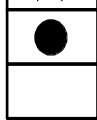

<p>②社会教育関係 団体の育成・支 援</p>	<p>達 3 成 度 2 ↑ 1</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">★</td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"> </td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"> </td> </tr> </table>	★			<p>○社会教育に関する事業を目的とする社会教育関係団体の育成のための助言および補助等の支援を図るとともに、社会教育を推進するボランティア等の自主的活動を支援した。</p>
★					

### 大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

#### 《知識と情報の拠点としての図書館の充実》

指標名	現状値 (H21)	H26	目標値 (H27)	進捗状況
図書館における市民1人あたりの平均貸し出し冊数(年間)	7.73冊	7.17冊	8.97冊	C
レファレンスサービス件数(年間)	25,126件	24,116件	28,500件	C

進捗状況 : A・・・予定をはるかに上回る B・・・概ね予定どおり C・・・予定より遅れている

中項目	小項目	点検・評価	
(1) 図書館機能の充実	① 図書館資料収集・提供の推進	達成度 3  2  ↑ 1 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高度化、多様化する市民の資料・情報ニーズに対応するため、蔵書構成に配慮しながら資料収集に努めた。</li> <li>○ 資料収集について、平成26年度は、市民1人当たりの蔵書計画数4.06に対して、蔵書点数4.10点となり計画数を上回った。理由としては、地域の篤志家より3件の寄付があり、登録点数が増えたため。</li> <li>○ 資料提供の貸出事業については、平成22年度までは、図書館利用者や貸出点数が年々増加していた。しかし、平成23年3月の東日本大震災、平成24年度の生涯学習センター駐車場工事等の理由で利用が減少し、平成25年度は、本館は駐車場が完成したことで利用が増えているが、分館は隣の図書館の新館が開館したために、利用が減少した。平成26年度は移動図書館のステーションの増加により、巡回の利用は増加したが、分館の利用の減少の影響で、全体的には減少となった。</li> <li>○ 貸出点数の市民1人当たりの計画点数7.56に対し、7.17点となり、計画点数を下回った。</li> </ul>
	② レファレンスサービスの充実	達成度 3  2  ↑ 1 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図書館は、教養・調査・研究・趣味を醸成するための知識の集積基地として、新鮮な情報や蓄積された資料を提供する機能が求められている。利用者のニーズに対応し、必要な資料・情報を紹介したり、調べ方の相談に応じるレファレンスサービスを積極的に推進している。</li> <li>○ 平成26年度の目標値27,761点に対し、実績では24,116点となり、計画数値を下回った。</li> </ul>
	③ 他施設などと連携した活動の推進	達成度 3  2  ↑ 1 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県立図書館や市町の図書館と資料の相互貸借等で資料の有効活用を図っている。</li> <li>○ 相互貸借点数は、借受けが1,457点、貸出が949点となっている。(点訳、音訳を除く)</li> <li>○ 地域資料の収集、保存、活用のため郷土史家からの寄贈活用、レファレンスサービス等において、郷土資料館の学芸員と連携を図りサービスに努めた。</li> </ul>
	④ 子ども読書活動推進計画の推進	達成度 3  2  ↑ 1 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子ども読書活動推進計画に基づき、幼稚園、保育園へボランティア協力のもと、移動図書館を活用して、読み聞かせ、貸出を行った。また、子どものための読書関連事業に関する情報提供を行った。</li> </ul>
	⑤ 移動図書館事業の充実	達成度 3  2  ↑ 1 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図書館から遠方の地域に巡回を行って利用者サービスを行っている。平成26年度は、10月から新たに北上小学校へ巡回を開始した。今後、遠方の地域で巡回を行っていない小学校の巡回について、学校の規模、巡回の日程等考慮して、検討を行っていく。</li> <li>○ 平成26年度の計画貸出点数33,316点に対し、新規ステーションを年度途中より増加したため、実績では34,101点と計画数値を上回った。</li> </ul>
(2) 図書館資料の電子情報化の推進	① 電子化による地域資料の保存と活用	達成度 3  2  ↑ 1 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 貴重な地域資料の保存、活用を図るため、資料の著作権許諾を取りながら、マイクロ化・デジタル化を進める。また、ホームページで地域資料の記事索引を検索できるよう入力を行う。</li> <li>○ 平成26年度のデジタル化は、延べ件数37件となり計画件数を達成した。ホームページでの記事検索入力は、新規に広報みしまの「ふるさと探訪」及び「歴史の小箱」を549号分行い、計画値を上回った。</li> </ul>

化の推進

②電子資料の拡  
充

達 3  
成 度 2  
↑ 1



○情報社会の進展に伴い、図書館でも市民への情報提供において  
オンラインデータベースにより、高度で正確、迅速な対応が求  
められている。  
○契約の件数は、計画数の5件。

### 大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

#### 《知識と情報の拠点としての図書館の充実》


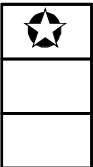
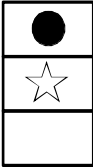




中項目	小項目	点検・評価	
	①講座・講演会の開催と教育施設との連携	達成度 3 ● 2 ☆ ↑ 1 □	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文学講座、子どもと本の講演会、おはなし会等の各種講座、講演会、学校訪問を延べ180回開催することによる読書普及活動を行った。</li> <li>○平成26年度の参加者は4,191人と平成25年度より下回った。</li> <li>○教育施設との連携では、学校訪問等図書館から訪問する以外に、幼稚園、保育園の図書館訪問、学校の施設見学、職場体験学習等受入を行っている。 平成26年度は、子ども読書活動推進計画に基づき、幼稚園、保育園へボランティア協力のもと、移動図書館を活用して、読み聞かせ、貸出を行った。 中郷分館では、公民館と共催で子どもの行事を実施している。</li> </ul>
(3) 読書普及・図書館活用の推進	②ブックスタートなどの充実	達成度 3 ☆ 2 □ ↑ 1 □	<ul style="list-style-type: none"> <li>○絵本を介して親子の絆を強め、読み聞かせの大切さについて理解してもらうため実施。</li> <li>○ブックスタートについては平成26年度対象人数844人、実績は804人で参加者割合95.3%の、セカンドブックは、対象人数911人、実績は883人で参加者割合96.9%であった。</li> </ul>
	③ボランティアの養成	達成度 3 ☆ 2 □ ↑ 1 □	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書館の運営には、ボランティアの方々の協力が必要となってきた。より充実した活動をしてもらうためにも、研修等の養成が重要となる。</li> <li>○図書館のボランティアは、ブックスタートボランティア、セカンドブックボランティア、図書館ボランティア、音訳ボランティア、点訳ボランティアの方々に活動していただいている。それぞれ、養成講座等を受講後登録制。それ以外には、家庭文庫の方に子どもの事業で参加してもらっている。 音訳、点訳は、専門的技術が必要で、養成講座、勉強会をそれぞれ年10回程度開催。資料が作成できるようになるまでに、数年かかる。 ブックスタート、セカンドブックは、4回連続の養成講座を受講してもらい、研修しながら活動している。</li> <li>○平成26年度に登録しているボランティアは127人あり、延900回活動していただいた。</li> </ul>

### 大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

#### 《 郷土資源の継承と文化財の保全 》

指標名	現状値 (H21)	H26	目標値 (H27)	進捗状況
指定文化財の件数	79件	84件	85件	B
郷土資料館入館者数 (年間)	45,200人	48,026人	60,000人	C

進捗状況 : A・・・予定をはるかに上回る B・・・概ね予定どおり C・・・予定より遅れている

中項目	小項目	点検・評価	
(1) 郷土資源の保護・継承	①郷土資源の保護・保存	達成度 3 2 ↑ 1	 <p>○三島市文化財保護事業費補助金交付要綱に基づき、市指定文化財である妙法華寺本堂及び龍潭寺隠察内入江長八鍔細工の修復事業に対して、修復費の一部を補助した。</p>
	②郷土資源の継承	達成度 3 2 ↑ 1	 <p>○郷土資料館では、郷土資源を活用した企画展や教育普及活動の一環である児童生徒や親子を対象とした郷土教室を郷土資料館ボランティアと協働で開催した。</p>
(2) 文化財の保護・保存	①文化財の調査と発掘	達成度 3 2 ↑ 1	 <p>○市内遺跡試掘・確認調査では、平成26年度は258件の照会を受け、うち88件が遺跡範囲内に該当し、27件を補助金・市単独費負担にて調査するとともに、文化財関係の概要をまとめた「埋蔵文化財発掘調査報告書XX」、「埋蔵文化財発掘調査報告書 補助事業版第1号」を刊行した。</p>
	②文化財の保存	達成度 3 2 ↑ 1	 <p>○史跡山中城跡・向山古墳群・箱根旧街道などの国・県等指定文化財の維持管理のため、例年実施している芝生の手入れや雑木雑草の除去等を実施した。</p>
(3) 文化財の環境整備と活用	①文化財の環境整備	達成度 3 2 ↑ 1	 <p>○現在史跡公園として公開している山中城跡は、第1期整備から40年以上が経過し、土塁や堀の崩落が目立ってきているため、国・県の補助を受け、平成24年度から平成28年度までの5ヵ年計画で損傷の著しい12地点を対象に再整備事業を実施している。平成26年度は西櫓土塁及び平面表示、元西櫓土塁、二ノ丸西堀、二ノ丸西堀橋の再整備工事を実施した。</p>
	②文化財の活用	達成度 3 2 ↑ 1	 <p>○向山古墳群を史跡公園として公開活用するため、平成23年度24年度の2ヵ年で公園整備事業を実施し、平成25年4月29日に開園式を行いその後、水と緑の課に管理移管をした。今後は貴重な前方後円墳である16号墳を良好な状態で後世に伝えられるよう適切に管理していく。</p>
	③郷土資料の展示・教育普及の推進	達成度 3 2 ↑ 1	 <p>○平成26年度は、「三島宿を支えた人々」、「楽寿園の歴史」等の三島に関連した企画展を5回開催し41,158人が入館した。 ○体験を中心とした「郷土教室」を郷土資料館ボランティアとの協働で月2から3回の開催に拡大し、幼児から小学生を中心とした1,203人の参加があり、教育普及事業の充実を図ることができた。</p>



### 大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

《多様な文化、芸術活動の推進》

指標名	現状値 (H21)	H26	目標値 (H27)	進捗状況
市主催・共催の文化事業への入場者数 (年間)	108,846人	140,684人	115,000人	A

進捗状況 : A・・・予定をはるかに上回る B・・・概ね予定どおり C・・・予定より遅れている

中項目	小項目	点検・評価	
(1) 文化・芸術活動の振興	①文化・芸術振興に関する基本計画の策定	達成度 ↑ 1 2 3	☆ ○平成26年度、27年度の2カ年で文化振興計画を策定していく。 ○平成27年11月頃にパブリックコメント、平成27年度末に公表予定。
	②文化・芸術活動の推進	達成度 ↑ 1 2 3	★ ○三島市美術展をはじめ、市民合唱祭、芸術祭、演劇祭等を実施するとともに、平成26年度に第37号となった文芸三島を発行した。 ○佐野美術館が開催する特別展を共催した。また市民の美術鑑賞の機会を増やすため、年間4枚の市民招待券を広報みしまに掲載した。
	③文化・芸術団体への支援	達成度 ↑ 1 2 3	★ ○51団体(会員数約2,900人)により組織されている三島市文化芸術協会のほか、三島フィル、三島吹奏楽団、ロビーコンサート実行委員会の活動支援を行った。
	④伝統芸能・伝統文化の継承・発展	達成度 ↑ 1 2 3	☆ ○静岡県指定無形民俗文化財である「三島囃子」を保存・継承している三島囃子保存会が実施している「地域の伝統的な古芸能の保護・継承事業」に対して、事業費の一部を補助した。
(2) 文化・芸術活動の環境整備	①市民文化会館の運営と改修	達成度 ↑ 1 2 3	★ ○市民文化会館は、平成3年4月の開館以来23年が経過し、施設各所において経年劣化による老朽化が目立ってきており、全面的な改修が必要になってきたため、平成25、26年度に安全性を重視した電気設備、機械設備、建築の改修工事を実施した。
	②発表の機会と活動の場の充実	達成度 ↑ 1 2 3	★ ○日頃の練習や活動成果の発表を行う場として三島市民美術展をはじめ、市民合唱祭、芸術祭、演劇祭の開催及び文芸三島第37号の発行をした。



## 5 三島市教育委員会事務管理等点検・評価委員からの意見・講評

点検及び評価の実施にあたっては、平成26年度の事業について、その進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取組の方向性について、内部評価を行うと同時に、学識経験者の知見活用として、「三島市教育委員会事務管理等点検・評価委員」からご意見・ご助言をいただくこととしました。

三島市教育委員会事務管理等点検・評価委員は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項で「点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする」と規定されていることから、その客観性を確保することを目的として設置したものです。

また、同委員の人選にあたっては、大局的見地から助言をいただける方及び学校教育・社会教育に精通した方として、3人の学識経験を有する方に就任を依頼しました。

### 三島市教育委員会事務管理等点検・評価委員

(敬称略)

氏名	所属等
大村 知子	静岡大学名誉教授
本持 信慈	三島市社会教育委員会委員長
鍋田 陽子	元三島市立小学校長

## 大項目1 教育委員会の活動

- ・委員会議事録の公開は積極的になされていると評価するが、市民への公開に関する広報方法に工夫の余地を残していると考える。
- ・定例会議予定日のHP掲載を可能な限り早めることを期待する。事前とはどのくらいの日時か不明でHPでは「会議の予定はありません」という掲載を見かける。
- ・所管施設の訪問は、時間的制約もあって回数は限られることはしかたがないが、視察によってどのような評価や指摘など視察後の講評の記録、その後の検討・改善などの記録がないので、視察の効果が評価できない。視察回数ではなく視察の効果が重要である。
- ・新制度樹立により、「委員会の活動が停滞するのでは」との懸念が不要であったことは言うまでもなく、各種会議が適宜に開催されているところは高い評価に値する。
- ・定例会、臨時会、いずれも運営は適切になされていたと思われる。
- ・教育活動への関心が高いからこそ、情報の公開により理解を深めようとすることは評価できる。
- ・毎回会議前に丁寧な説明をすることが、教育委員会と事務局の意思の疎通につながることで評価できる。
- ・教育行政の根幹にかかわることを、教育委員と首長とが直接意見交換できたことは、高く評価できる。
- ・先進的な取り組みをしているところから、直接情報を取得し、領域を広げて研鑽を積むことにより、新たな視点を得て、課題解決に反映させることは重要なことである。
- ・学校等に訪問することで、幼児・児童・生徒の状況を教育委員それぞれの立場から把握すると同時に、学校等に思いを直接伝えることができる大切な機会となっていると思う。

## 大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

### 《豊かな人間性と確かな学力の向上》

#### ■中項目（1）幼児教育の向上

- ・昨年度同様小項目の4項目全てが達成度2ということは、残念な結果といえよう。
- ・特に小項目①は平成26年度がプログラム計画期間の最終年度であったのに、「概ね達成」であったことに関しては、その要因を十分に分析し、幼稚教育の環境変化に対応できる体制づくりを急ぐことが望まれる。それが、向上と充実の基礎・基本となると思う。
- ・幼児に関係する諸機関との連携がより強固に結ばれるよう望みたい。
- ・幼保一元化が叫ばれている昨今、待機児童の問題解決に取り組まれるようお願いしたい。
- ・保護者の多岐に亘る要求に応え信頼を得るためには、課題に対して積極的に対応を提示していくことが望まれると思う。特に、小学校との連携については、今後も幼小連絡会での研修を深めていくことを期待したい。
- ・子ども一人一人について、職員個人の受け止めに尊重しつつも、常に全職員で共通理解を図るという意識を高めていけるように特別支援教育研修を重ねていただきたい。また、具体的な指導例を小学校にも資料として伝えることはできないだろうか。

## ■中項目（２）小中学校における教育力の向上

- ・各項目の評価は妥当である。
- ・児童・生徒が穏やかに学習に取り組める環境と多様で質の高い学びを提供できるようにさらなる向上を期待します。
- ・諸問題が噴出する児童生徒の学内生活における学校関係者の負担は日々増大する傾向が否めない。そんな中において学校教育課の責務は計り知れないが、「心の教育」「学力学習」の実現には高い評価をしたい。
- ・子どもが学校で楽しさを感じる時は、自分の存在が認められる場があると考え。そのような状況づくりに力を注ぐ教職員の配慮があればこそ、楽しいと思える状況を生み出せていると思う。その中で、心に課題をもつ子どもの声を受け止める地道な働きかけを今後も続けていただきたい。
- ・全国学力学習状況調査で、よい結果を示せたのは、日々の授業改善の成果だと思う。それを支えているものとして、教育研究指定・教科等指導リーダー事業等、人材の育成が要になっている。中核となる人材の育成には、長期的な視野から今後も強力で推進をお願いしたい。
- ・特別支援教育に対する三島市の取り組みは、毎年、専門家を招いて研修を深める等充実している。教職員の意識も高まりつつある。今後も幼小、小中の連携を更に深めていけるように研修を推進していただきたい。
- ・いじめ問題については、情報収集と本人の思いを特定の教職員だけが受け止めるのではなく、学校全体としてかかわることの重要性を、再度確認していく場を大切にしていきたい。
- ・学校には、保護者や地域の方から、多様な価値観から生まれる思いが寄せられる。その一つずつに対応していくために、思いの根底にあるものを丁寧に受け止め、学校の立場を理解してもらえるように、子どもの様子を中心とした情報の発信に今後も取り組んでいただきたい。
- ・限界値に近い残食率を更に減らすための取り組みが、献立の工夫や子どもたちへの指導というかたちですすめられている。栄養士を中心とした調理員の普段の努力に感謝したい。これからも安全という点から、衛生に対する基本を常に顧みる学校給食であってほしい。

## ■中項目（３）教育環境の整備

- ・市の財政との兼ね合いがあることは理解できるが、次世代を担う大切な人材の教育施設・設備の整備は最優先事項であることを強調しさらに加速していただきたい。
- ・評価は妥当である。
- ・施設・設備については大震災の教訓が随所に生かされている。
- ・児童を取り巻く環境は、地域住民の方々と連携を図っていくことが重要であり、今後も期待は大である。
- ・教育施設・設備の整備については予算との関係があるので、計画的な取り組みを推進していただきたい。そのような中でも、教育委員会は学校からの問い合わせに、すぐに対応してくれる態勢を整えてくれている。
- ・スクールガード全体研修が開催されたことは、他地域の様子がわかり自校の課題も見えてよかった。市内全体としての方向を見定めるためにも、今後も継続していただきたい。

## 《青少年の健全育成の推進》

### ■中項目（１）青少年活動の推進

- ・児童・生徒は時間的ゆとりが限られている折、学校との連携や指導者の育成は重要であり、評価は妥当である。
- ・活動を推進していくためには、行政からの予算の補助も少なからず必要ではないか。奉仕者に頼るのも結構だが、主体は行政にあるとの自覚が望まれる。
- ・子ども会連合会では、参加者の人数減少が大きな課題と聞いている。その中で、父親が役員になり、新しい面を生み出そうとしている地域があるとのこと。子どもたちにとっても、学校以外に体験ができる場をもつことは、貴重なことである。ボーイスカウト、ガールスカウトについても、団体活動の支援を厚く推進していただきたい。
- ・リーダー育成研修経験者が、指導者として活躍していることは、嬉しいことである。そのように指導者として活躍している方々に、指導者としての活動を進めるための各自の課題をどのように解決してきたのか、具体的に収集して、これからの指導者育成に生かすことはできないだろうか。

### ■中項目（２）青少年を育む地域づくり

- ・いずれの評価も妥当であるが、地域の意識も高まっているので、行政のサポートのしかたやその内容は年々進化することが望まれる。
- ・家庭・学校・地域の連携こそが健全な青少年を育てるものであり、担当諸課と団体との連携に大きな期待を寄せる。
- ・学校支援地域本部事業については、すでに推進している学校の内容を参考にしつつ、各学校の特色を出すためにも、家庭・地域の意見を収集していきたい。関わっている方から「実に楽しい」という感想を聞いた。全小中学校での実施に向けて、準備を重ねていただきたい。
- ・学校を訪問して、実態を把握する中で、相談体制を整えるということは、関係者も心強いと思う。大きな課題になる前に、対応できるように、学校訪問を続けていただきたい。
- ・補導活動は、いろいろな立場の方が、実際に声を掛ける行為をしてくださることで、見守っているというメッセージを伝えることができ、抑止力になっていると思う。広報紙による情報の提供やセミナーによる子ども理解とかかわり方を深めることで、子どもたちが置かれている環境を知り、寄り添うことにもつながっていくと思う。

### ■中項目（３）青少年活動の場の整備

- ・3項目とも達成の評価は妥当であるといえる。今年度の結果から、行政が主体的に整備すべきケースとアウトソーシングが可能なケースとを仕分けして、質と効率のバランスをとって推進することを考慮し再検討を試みるのも必要ではないかと考える。
- ・三島市は自然に恵まれた環境にあり、活動には最適な場を与えられていると思う。従ってそこに携わる人材登用が望まれる。
- ・箱根の里は、豊かな自然に囲まれた環境の中、感性を磨く体験を存分に味わえる場として、受け入れ態勢を常に整えている。国際交流で訪れた海外の青少年も活用すると聞いている。
- ・青少年の活躍の機会を広げていくためにも、関係機関・団体などと更に連携を深めていくことを期待したい。

## 《生きがいとなる生涯学習の推進》

### ■中項目（１）総合的な生涯学習の推進

- ・適切なプランの策定を期待する。
- ・「生涯学習推進プラン」に期待する。それによって今後の推進力が増していくよう望む。
- ・生涯学習の一層の推進は、市民生活の活性化に大きく反映されると思う。多様な情報から三島市にふさわしいプランの策定がなされることを期待したい。

### ■中項目（２）多様な学習機会の提供

- ・①の評価は達成度3としても可である。
- ・多様な講座の開催を多とするが、内容に関して「生涯学習としての適否」の精査はどのようにしているのかが不明である。
- ・公立学校と私立学校の交流を深めることによって、更に学習内容が多様化されるのでは。
- ・市内には大学や遺伝学研究所といった素晴らしい教育機関があるので、支援を望んでみてはいかがか。
- ・小中学校で推進されている家庭教育学級は、学級生の自発的な活動を促し、一人ではなかなか実践できない内容に挑戦する機会となっている。このように生き生きと活動する大人の姿は、子どもたちへも憧れを生み出すきっかけとなる。

### ■中項目（３）学習環境の整備・充実

- ・限られた条件下での対応であり、評価は妥当と言えよう。保全計画の加速化や日進月歩の機器の更新などに関する苦勞を理解する。
- ・生涯学習センターの付帯施設や老朽化設備等は年々改善されている。
- ・利用される方々には公的施設でもあるので、学びを深める場所という認識の徹底を図りたい。
- ・様々な世代が利用する生涯学習センターであるので、改修・修繕も計画的な取り組みが必要である。今後も最新の環境を整えることができるように、専門的な見地から対応をお願いしたい。

### ■中項目（４）社会教育活動の活性化

- ・①の評価は妥当である
- ・②社会教育関係団体の実態が把握できないので判断できなかった。（資料の参照頁がわからなかった）
- ・公民館活動は地域の活性化は元より、住民とのコミュニケーションの場として最も有効な施設である。しかし、対応いかんによって停滞する場合や、住民の不満が募る場合などもあり得るので、一考されたい。（職員不足など）
- ・地域住民の意見反映・自治会等の積極的な関わりを生み出すなど、毎年少しずつ改善できる面を丁寧に把握して、自主性を発揮できるように公民館利用団体への支援を続けていきたい。

## 《知識と情報の拠点としての図書館の充実》

### ■中項目（１）図書館機能の充実

- ・指標である「図書館における市民一人当たりの平均貸出冊数」減少や「レファレンス件数」低下は高齢化も影響していて、評価基準や目標の視点を変えていくことが必要ではないか…。
- ・各項目の評価は妥当である。
- ・これほど多くの業務が推進されていく中で、文化の一翼を担っていることを市民は知っているのでしょうか。PR活動をお願いしたい。
- ・機械化の進む世の中に、「原点に帰す」の事業展開は図書館からといっても過言ではないと思う。
- ・利用者のニーズに対応するためにも、他市町のサービスを研修するなど、改善を進める三島市図書館であってほしい。（例：他町だが、利用者が直接貸し出しの手続きをする機能があり便利。）
- ・遠方の地域の小学校へも移動図書館巡回を検討ということで、是非実現していただきたい。子どもたちは、移動図書館をととても楽しみにしている。ささやかな楽しみの積み重ねが、読書への意欲につながると思う。

### ■中項目（２）図書館資料の電子情報化の推進

- ・評価は妥当である。様々な障害も多いと推察するがさらに加速することを期待する。
- ・スムーズな対応が望まれている事業として可能な限り努めていただきたい。
- ・三島市の市民活動もまた、市の活性化に大きな役割を果たしていると思う。近代の地域資料保存も積極的に推進していただきたい。

### ■中項目（３）読書普及・図書館活用の推進

- ・工夫しながら多様な展開を試みていることに関して高く評価したい。
- ・何事においても機械化が進む中で、「読む」「書く」の基本的習慣を提供されているのは素晴らしいことだろう。
- ・子どもの人数が減少している中、各講座・講演会の人数確保は難しい部分があると思われるが、三島市出身の絵本作家等、世代を超えて関わりがもてるような企画も考えていただければと思う。
- ・ブックスタートなど具体的な場の設定は、保護者にとっても、読み聞かせに対する理解とともに、同じ境遇の者との情報交換になり、子育てについてのネットワークを築くよい機会ともなるのではないか。
- ・ボランティア登録者数が増えたということは、図書館への関心が高まっていることの表れである。今後も領域別に登録者が増えるように、研修の充実を図りたい。

## 《郷土資料の継承と文化財の保全》

### ■中項目（１）郷土資源の保護・継承

- ・着実に実施されていると評価する。
- ・「温故知新」の精神を広く市民に向け、事業展開が計られていると感じる。
- ・小学校では、毎年決まった学年が郷土資料館での見学を実施している。自分たちの郷土のことを知るよい機会となっている。館員の丁寧な説明が、子どもたちの関心を高める一助となっていると思う。

### ■中項目（２）文化財の保護・保存

- ・適切な対応がなされているといえよう。
- ・市内探索は必要欠くべからざるものとして文化財に値する発見があると思う。調査の継続を望む。
- ・山中城跡は、いつ訪れてもきれいに保たれており、向山古墳群については、丁寧に整備している場面に行きあった。このような地道な取り組みを評価したい。

### ■中項目（３）文化財の環境整備と活用

- ・保護・保全と活用とのバランスに留意して、進めることを期待する。
- ・評価はいずれも妥当であると考える。
- ・維持管理は大変な作業であるが、同時に保存の大切さを広報する活動推進が望まれる。
- ・世界遺産に認定された文化財保有市への歴史的交流を調査する事業展開は、ぜひ推進していただきたい。
- ・向山古墳群は、整備が進み散策する環境も整っている。最近はウォーキングを楽しむ人も増えているので、気軽に立ち寄れる場所としても更に広報活動を進められたらと思う。

## 《多様な文化、芸術活動の推進》

### ■中項目（１）文化・芸術活動の振興

- ・策定中の文化振興基本計画に期待したい。
- ・活動内容のレベルアップに向けた振興策のアクションプランを期待する。
- ・文化振興基本計画策定後の活動に期待している。
- ・文芸三島の発行、佐野美術館での鑑賞については、学校との連携が進められ、学校に対して積極的な関わりを生み出す努力をされている。やがては三島の文化を推進していく子どもたちに経験を積む機会をこれからも設けていただきたい。
- ・生涯学習として、やりがいのある活動を支えていくためにも、文化・芸術団体への適切な支援を続けたい。

### ■中項目（２）文化・芸術活動の環境整備

- ・多大な財源を伴う事業が実施できたことは高く評価できる
- ・市民参加型の活動が展開されている場所づくりに、行政の役割は重要な位置を担っている。こうした施策に指定管理者との連携は、問題を抱えたとき解決に向け行政のイニシアティブが問われる。
- ・市民文化会館は市民の様々な発表の場であるので、老朽化が目立つ時期であるからこそ、今後も早めの点検改修に力を入れて、安全な場の確保をしていきたい。

## 総合評価

- ・各項目の自己点検・評価はおおむね妥当であった。あわせて、意見・講評の記載方法の変更もいいと思った。
- ・教育力の向上については、教員にとって教育力・指導力の基礎となる専門的知識・基礎的技術の研鑽を重ね、教員一人一人が確かな基礎的理論に基づく授業構想（シラバス）を構築し、実践することをめざして一層努力されるよう期待する。
- ・生涯学習に関しては、人口構成が急激に高齢化し、市民の生活スタイルが多様化していることや生活環境も変化していることを踏まえて、市民のニーズと三島市のビジョンとを焦点化して今後の事業企画・展開をするために、内容と展開方法の再検討が早急に必要であると思う。また、内容が少しずつオーバーラップする企画が各部署で実施されているが、役所内を横断して他の部署との協働・連携による事業の企画・実施が市民にとっては有益である。
- ・事業評価については、数値での量的評価だけでなく質的評価（検討）も重要である。
- ・多岐にわたる事務管理等を適正に実施しようとする姿勢を評価する。
- ・「人を育てる」という教育行政の担い手として教育委員会各課へまず敬意を表す。  
さてそこで、達成度、指標に数値をもって評価することに少々疑問を感じる。生涯学習、教育行政に終わりはなく、達成感は個人の感覚であり、継続の大切さを損ねてはならない。従って、常に変化していく世相に向かい、教育という人類最大のテーマに対して、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の再考を関係機関に望む。
- ・各事業、課題に対して、丁寧に取り組んでいることが伝わり、高く評価したい。多岐に亘る分野の動向を把握しつつ対応していくためには、変化の兆しをどう受け止めるかということがあると思う。継続していく中で、どのように発展性をもたせていくのか、今後の取り組みに期待していきたい。



## 6 おわりに

教育行政における事務管理及び執行状況についての点検・評価の実施にあたっては、教育委員会が自らの事務事業を振り返り、自己評価を行うとともに、客観性や公平性を確保するため、教育に関する学識経験を有する 3 人の三島市教育委員会事務管理等点検・評価委員の皆様のご協力をいただきながら進めてまいりました。

その結果、平成 26 年度に実施した事務事業に関しては、全体として一定の成果が得られたものと評価しておりますが、一方で、教育委員会各所属における自己点検や委員からのご意見等により、検討を必要とする課題や改善点も明確になりました。

また、全国的にいじめによる悲惨な事件が散見される中、その対応などを巡り教育委員会に対して問題を指摘する声があがりました。これを受け、これら問題を改善するため教育委員会の抜本的な改革が行われることになり、平成 27 年 4 月 1 日から改正地方教育行政法が施行されました。このように教育委員会に求められる役割は更に重要になってきており、市民の信頼に応える教育を実現することが急務となっております。

そのような現状を踏まえ、教育委員会の活動や教育行政の事務事業に関する点検・評価の実施により、実態を把握するとともに、新たなニーズに応じた教育施策の展開を図り、また、点検・評価委員の皆様からいただいたご意見やご提言を今後の事務事業に反映させ、責任ある教育行政の推進に努めてまいります。